



持続可能な価値創発を促す建築設計プロセスの構築
 ー旧光が丘第七小学校を対象としたモデルのスタディー

研究手法

①地域の情報収集

②既存校舎の分析

③シーケンス分析

④方針とモデルの検証



ビッグデータを用いた情報収集

対象地域を多角的に検討



図面などを用いた既存校舎の分析

既存校舎のかつての使われ方を把握する



モデル化し、シーケンスの分析

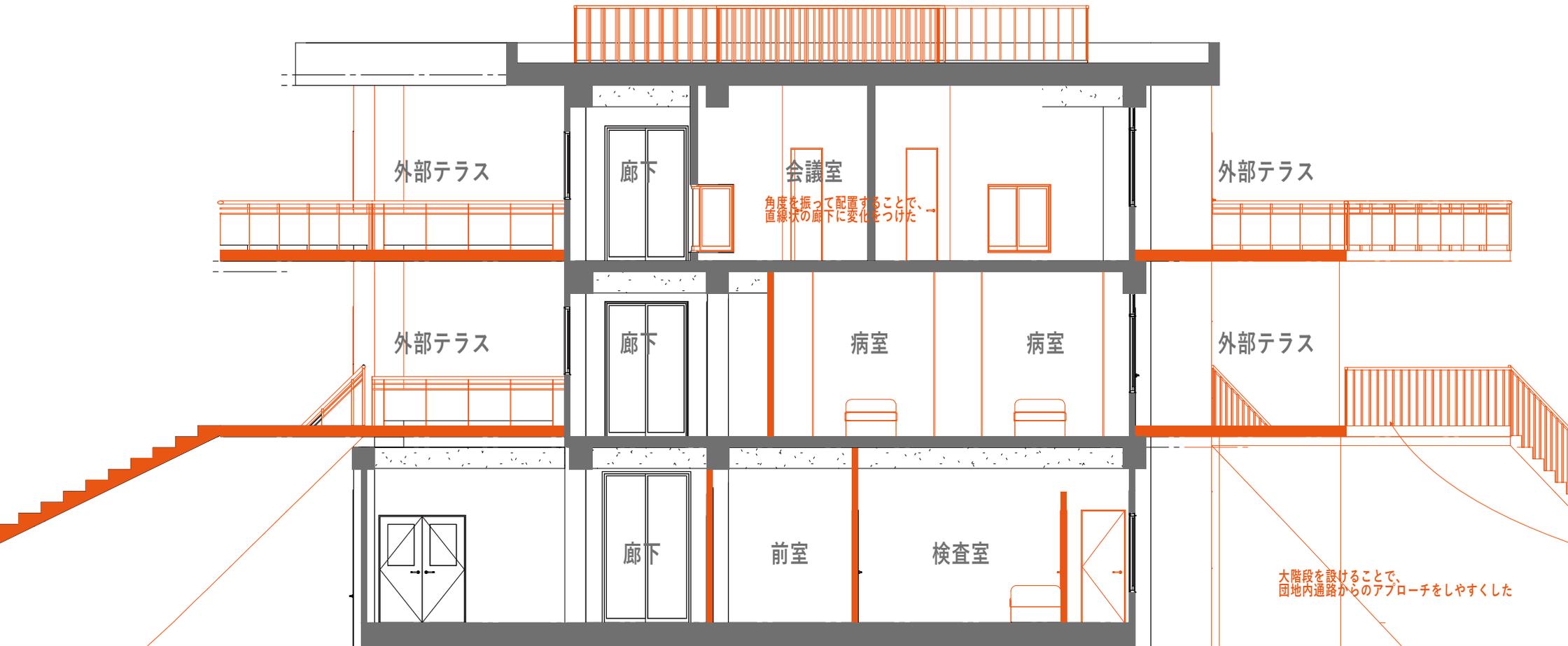
視線の分析や環境の把握



校舎の使われ方を検討

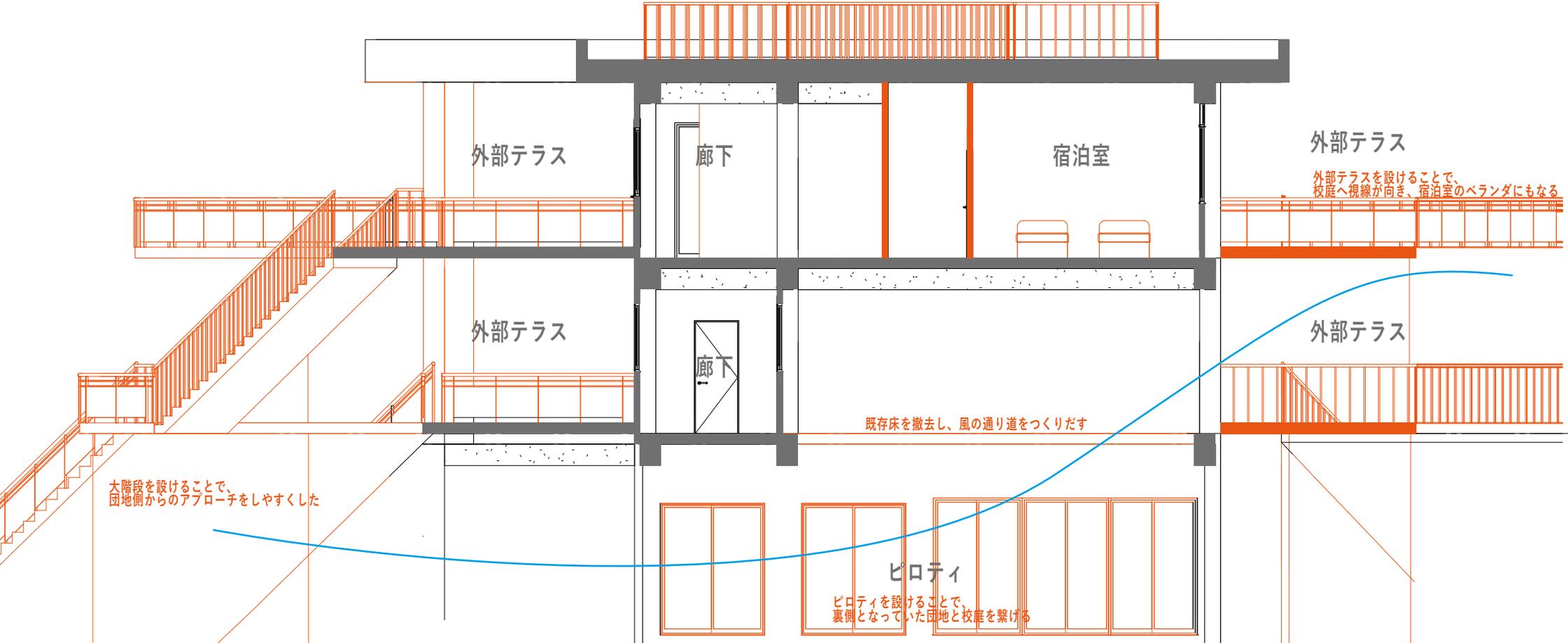
プログラム選定・検討など

屋上散策路

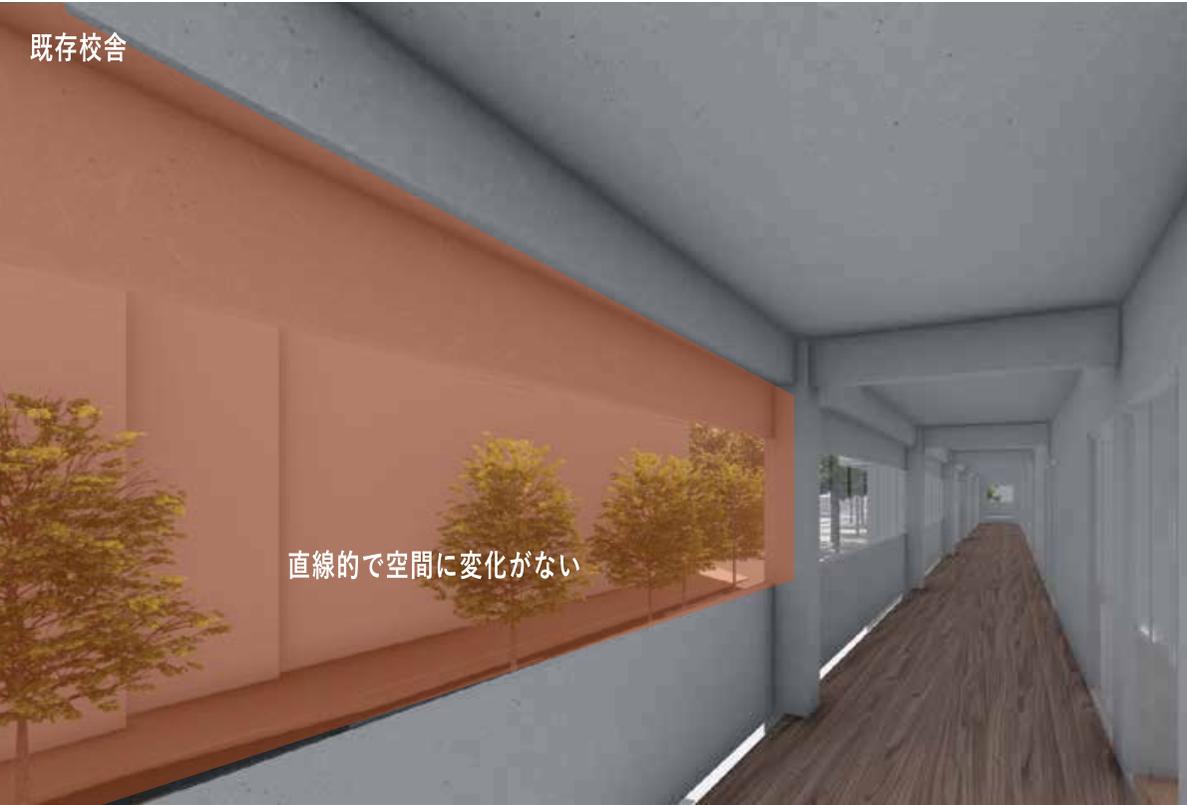


屋上散策路

屋上緑化をすることで団地の住民からも見ることができる

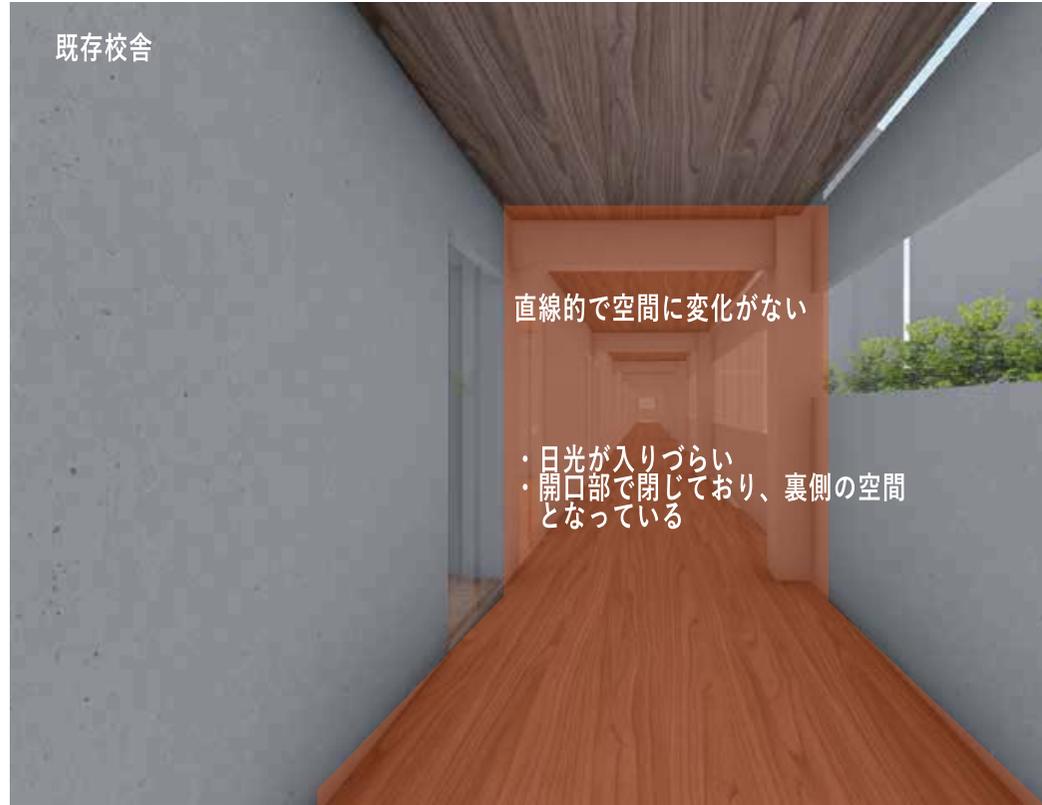


既存校舎



直線的で空間に変化がない

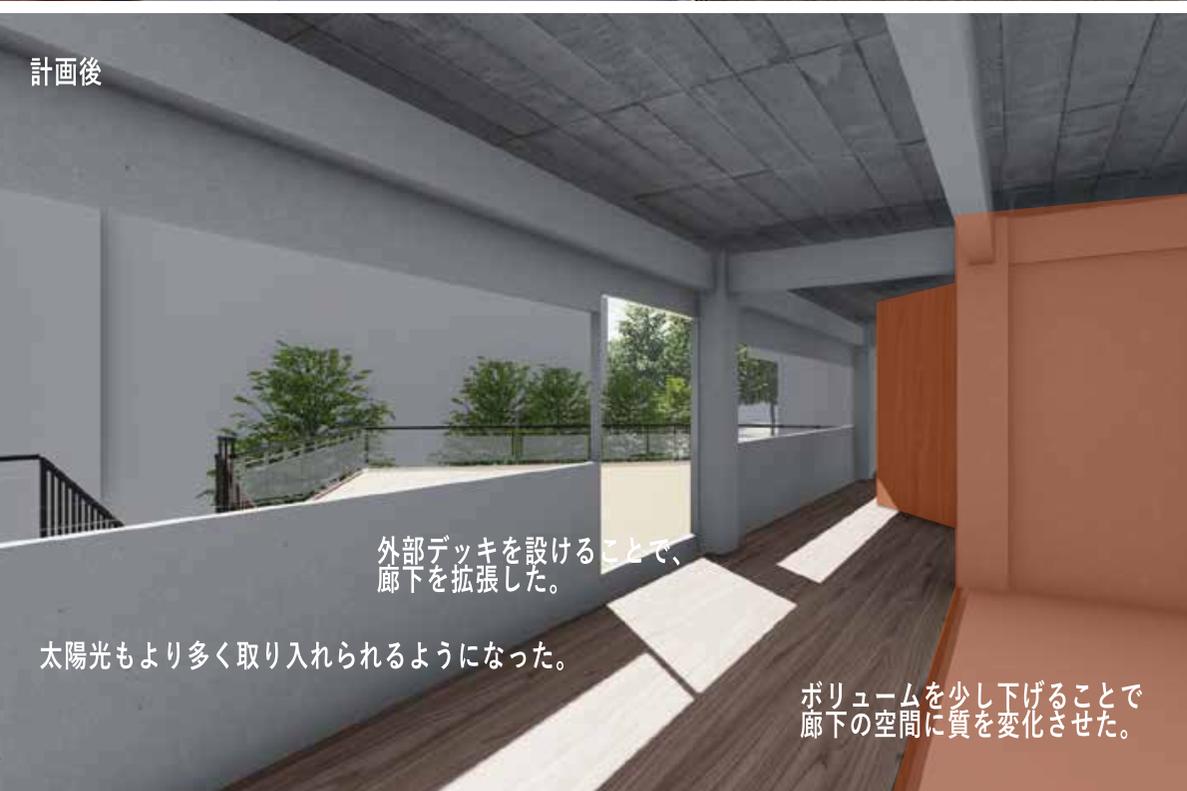
既存校舎



直線的で空間に変化がない

- ・日光が入りづらい
- ・開口部で閉じており、裏側の空間となっている

計画後



外部デッキを設けることで、廊下を拡張した。

太陽光もより多く取り入れられるようになった。

ボリュームを少し下げること
で廊下の空間に質を変化させた。

計画後



会議室を角度を振って配置することで、廊下と部屋の境界を減らした。

外部デッキへ視線が交差する。